

鎮魂のぶっかかりあい (8月7日) けせんちょう 気仙町のけんかセタ

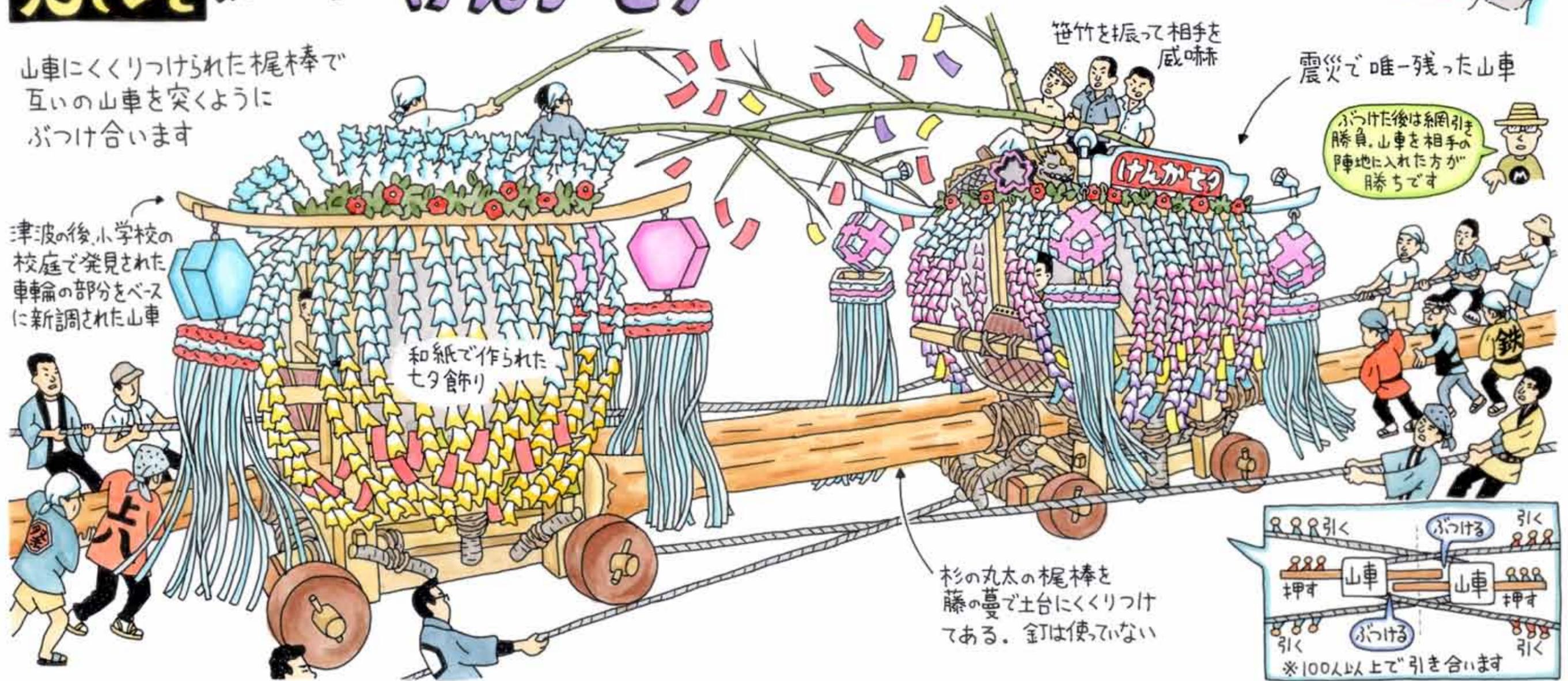
大震災をのりこえて
受け継がれるお祭りは
激しい太鼓の音がひびく
ちょっと荒っぽいセタ祭りでした

絵と文 溝ロイタル



山車にくくりつけられた梶木棒で互いの山車を突くようにぶつけ合います

津波の後、小学校の校庭で発見された車輪の部分をベースに新調された山車



震災の町に復活した「けんかセタ」

セタまつりは一般的に7月7日に行われるものと思われがちだが、有名な「仙台セタまつり」のように旧暦に因んで、月遅れの8月7日に行われるものもけっこう多い。今回訪れた岩手県陸前高田市「気仙町のけんかセタ」もそのひとつだ。

陸前高田市と言えば、昨年の東日

本大震災の津波で、壊滅的な被害を受けたところだ。鉄道は寸断され、未だ復旧のメドはたっていない。

東京の池袋から23時発の夜行バスに乗り、翌朝6時38分、高台に建てられた陸前高田市役所仮庁舎前に到着。予約しておいたタクシーで祭りの行われる気仙町に向かう。テレビで繰

り返し見た瓦礫の山。「ここが駅だったんですよ」と運転手さんが教えてくれるが、その痕跡はどこにもない。橋を渡り気仙町に入っても景色は同じだ。本当にここで祭りが行われるのか少し不安になる。

けんかセタは気仙町内の4つの地区が、セタ飾りを付けた山車をぶつけ

合い勝負をする祭りだ。津波で3台の山車が流されてしまい、去年は残った1台の山車を綱で引っ張り合って勝負をしたそうだが、今年は瓦礫の中から見つかった山車の一部を基に、もう1台を新調し2台をぶつけて、けんかを復活させるそうだ。

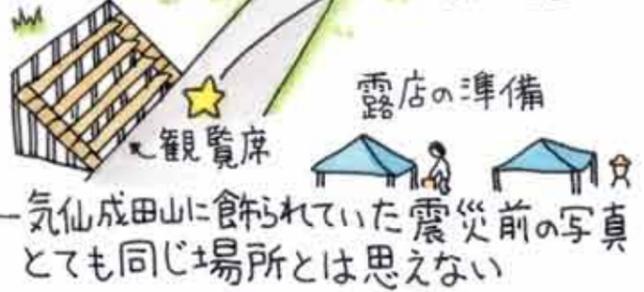
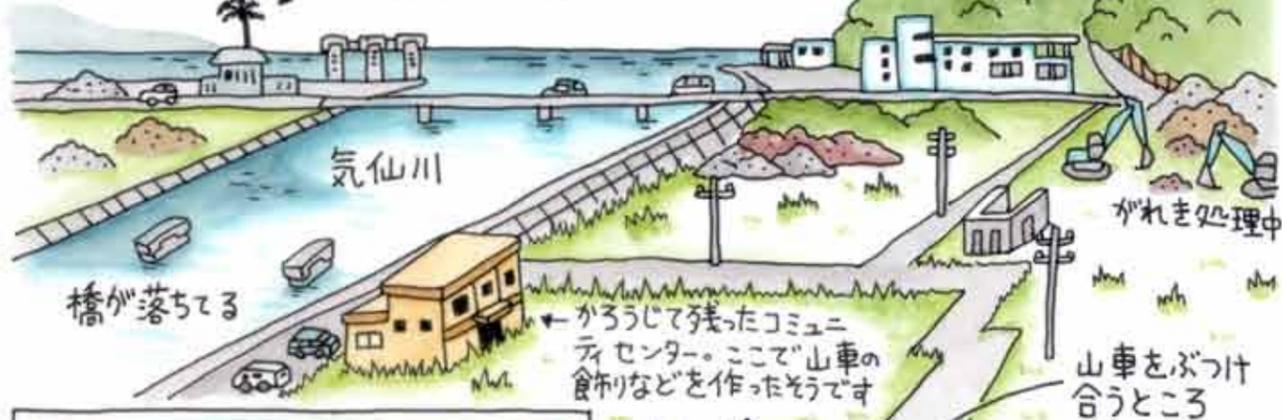
午前9時、気仙町の金剛寺跡(お堂は流されてしまった)に並べられた2

台の山車のまわりに少しずつ人が集まり始める。願い事が書かれた短冊を山車に吊るす作業をしていたオジサンが「やりますか?」と声を掛けてくれたので手伝わせてもらう。「早く新しい家がほしい」とか「ふつうの高田にもどりますように」などと幼い字で書かれた短冊を見て切ない気持ちになったり、「ダンサーになりた

い」みたいなのに少しホッとしながら、ひとつひとつしっかりと結びつけた。午前10時、塩とお酒で浄めた山車を引いて町内を練り歩く。町内といっても建物がなくなった更地だ。否めないのが引き手不足。1台を所定の場所まで引っ張ると、皆で戻ってもう1台を引っ張るので、なかなかスムーズには進まない。

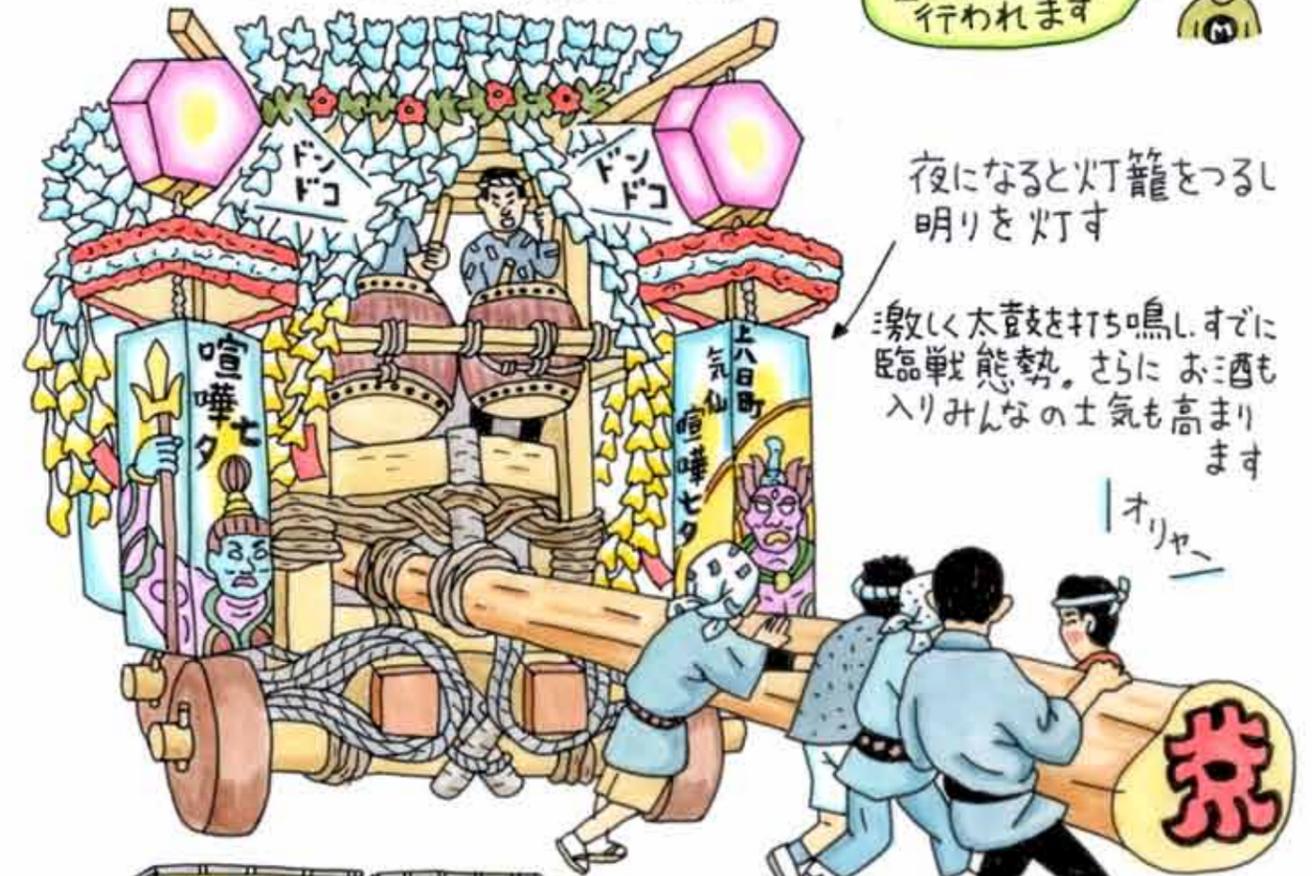
祭りの日の朝 高台の気仙成田山より海を望む

保存のため9月に切り倒された「奇跡の一本松」



けんかセタ(夜の部)

ぶつけ合いは昼と夜の2回行われます



何もなかった空地に露店ができて祭りの雰囲気も盛り上がります。大人も子どもも楽しそう



昼の休憩を挟んでいよいよ山車をぶつけ合うけんかが始まる。山車の中央には梶棒とよばれる杉の長い丸太が通っていて、これを互いの山車にぶつけ合うのだが、目測を誤ると大事故になりかねない。山車を向かい合わせ、慎重に位置を調整する。ぶつけた後は綱を引き合い、自分たちの山車を相手側の陣地に入れた方が勝ちだ。

ボランティアの団体や他県から応援の中学生、それに仮設住宅の住民を乗せたバスも到着し、午前中より引き手の数は倍増だ。まわりの人達に誘われるまま綱を握りけんかに参加する。「よーい、はじめ」の声を合図に綱を思いっきり引っ張ると、ぎりぎりですれ違った梶棒がそれぞれの山車に同時にぶつかり、ガンという大きな音と衝

撃。「ヨイヤサー、ヨイヤサー」の声に合わせて思いっきり綱を引く。山車の上では勇壮なけんか太鼓が打ち鳴らされている。「ヨイヤサー、ヨイヤサー」なかなか勝負がつかない。それにしても、ほとんどの家屋が倒壊してしまったこの町で、伝統の祭りが存続されているというのは奇跡だ。「ヨイヤサー、ヨイヤサー」でも、みんな楽しそうだ。

【気仙町けんかセタ祭り】

毎年8月7日に1日だけ開催される平家の落ち武者が伝えたと言われる900年の伝統を持つ祭り。鮮やかなセタ飾りが施された山車を4つの地区で制作し、山車同士をぶつかり合わせて勝負する「けんか」が見所。山車にくり付けられた樹齢50年の杉の丸太がぶつかり合う様子は圧巻。昼は長部漁港、夜は今泉町の路上で誰でも「けんか」に参加できる。岩手県指定無形民族文化に指定されている。

【アクセス】

- 電車を利用
東北新幹線「一関駅」下車。そこからバスで約1時間40分で「陸前高田」
- 高速バスを利用
東京・池袋駅より気仙ライナー(高速バス)にて約7時間、「陸前高田市役所仮庁舎」下車
- 車を利用
東北自動車道 一ノ関インターから国道284号→国道45号経由 気仙小学校まで約1時間30分

